

ストレス ↓ 病気 仕組み 解明

慢性的なストレスが胃腸炎や突然死を招く神経メカニズムをマウスで確かめたと、北海道大の村上正晃教授らのチームが15日、オンライン学術誌「イーライフ」で発表した。ストレスが体の不調を引き起こす仕組みを解明したのは初めてで、ストレス性疾患の新たな治療法の開発が期待できるという。

研究チームは、飼育箱の底

北大、マウスで確認

に水をためて熟睡させないなどストレスを与えたマウスを使って実験。脳内のストレス中枢が活性化すると、血中の特定の免疫細胞が脳内血管に集まり、小さな炎症が発生することを確認した。さらに、神経を通じて消化管に炎症が広がり、血中のカリウムが増えることで心不全につながることも見つけた。

免疫細胞集まり 脳に炎症

この免疫細胞を注入されたマウスは、ストレスを与えるると1週間で約8割が死んだという。同じ細胞は人間の血液中にもあり、血液検査で細胞の有無を調べれば、ストレス性疾患のかかりやすさを推定することも可能だという。

山下俊英・大阪大名誉教授（神経科学）の話「ストレスがなぜ体に悪いかを証明した画期的な成果だ。ただ、マウスと人は脳の機能が一部異なっており、人の治療につながるには霊長類での実験も必要になる」